

5 CHAPTER

第5章 地区別構想

本章では、萩市都市計画区域を対象として4つの地区に区分し、地区別に概況やまちづくりの問題・課題、まちづくりの方針を示します。

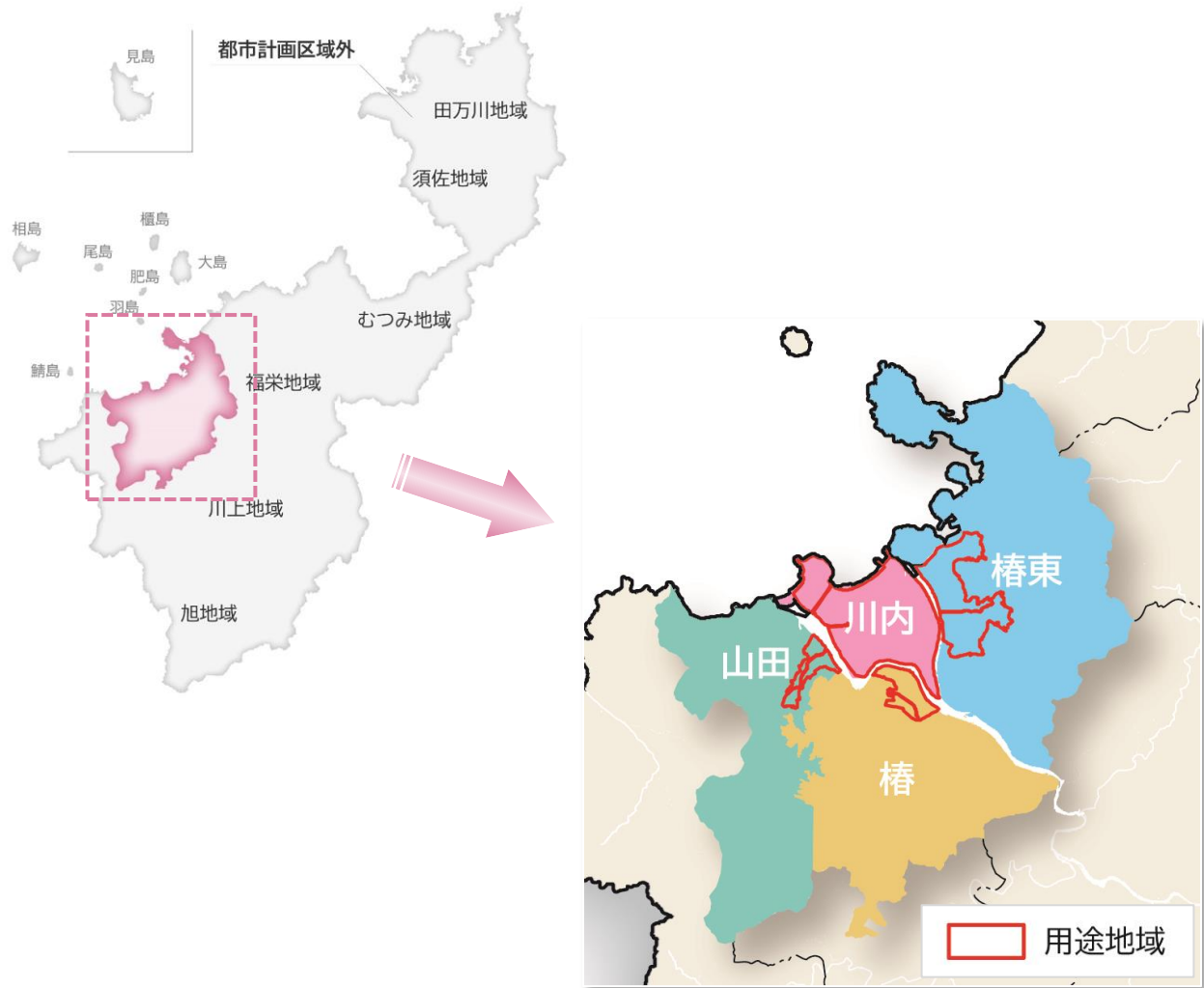
第1節	地区区分	88
第2節	地区別まちづくり方針	89
1	川内地区	89
2	椿東地区	97
3	椿地区	105
4	山田地区	111



第1節 地区区分

都市計画マスタープランは、都市計画に関する基本的な方針を定めることを目的にしていることから、都市計画区域を主たる対象として重点的に扱い、その地区別構想を策定します。

都市計画区域内の地域は、萩地域における4地区（川内・椿東・椿・山田）が地形的に見ても、また、住民のコミュニティとしても強く、まとまりがはっきりしています。そのため、地区別構想では、この4地区を地区単位として設定します。



▲地区区分図（都市計画区域内）

TOPICS

「都市計画区域外」の考え方

萩市域面積の約9割を占める、都市計画区域外の川上、田万川、むつみ、須佐、旭、福栄地域等においては、長い歴史に培われた文化やコミュニティなどの地域毎の個性や自然・歴史的条件を十分に考慮して、景観や森林・農地等の緑の保全に努めるとともに、豊かな自然環境や歴史・文化資源を観光資源として活用していきます。

また、住民が快適に安心して生活でき、かつ、個性と魅力あふれるまちづくりを進めるため、農村漁村集落の生活利便性を高める拠点を配置するとともに、道路整備や公共交通の充実によって市街地との移動環境を整え、市街地と総合事務所管内（地域拠点）を有機的に結び、持続可能な核・地域連携型の都市構造を目指します。





第2節 地区別まちづくり方針

川内地区

1 川内地区

(1) 地区の概況

市域の中央部を北流する橋本川と松本川に挟まれた三角州内に形成されている地区で、毛利氏の城下町として古くから市街地が形成され、中心地として発達してきました。

現在も、市役所等の行政施設をはじめ、公共公益施設や商業・業務施設、観光施設等が集積し、にぎわいや利便性の高い市街地が形成されています。

堀内・平安古・浜崎地区の重要伝統的建造物群保存地区（以下、「重伝建地区」）や史跡萩城城下町等、萩市固有の数多くの文化財、まちなみ景観、伝統文化等を有し、多くの観光客が訪れる地区です。

また、城跡・旧上級武家地・旧町人地の3地区からなる「萩城下町」は世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産に登録されています。



1) 自然的条件

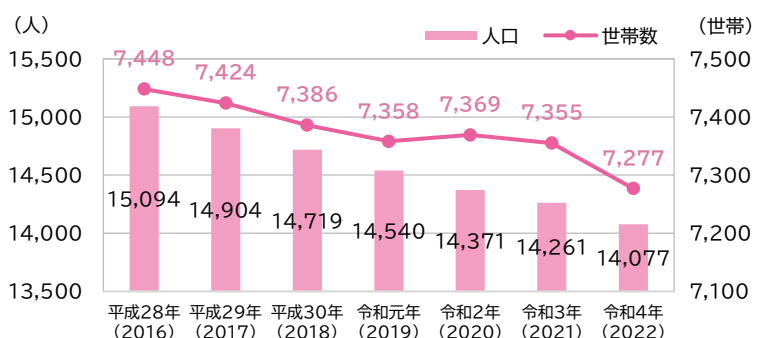
- ・橋本川と松本川に挟まれた三角州内に形成されている地区で、全体的に平坦地となっています。
- ・地区の北側は日本海に面しており、橋本川・松本川を挟んで、東側は橋東地区、西側は山田地区、南側は橋地区と接しています。

2) 土地利用・産業動向

- ・面積は584haで、全域が用途地域に指定されています。また、一部に都市機能誘導区域、居住誘導区域が指定されています。
- ・地目別土地利用は、地区の大部分が都市的土地利用となり、中でも住宅用地が大半を占めています。
- ・市役所をはじめ官公庁が多く立地する他、商業用地も多くみられ、都市機能が集約されています。
- ・萩城跡や武家屋敷、町家、古刹等の江戸時代のまちなみが多く残っている他、明治維新ゆかりの地として多数の観光客が訪れる観光拠点です。
- ・萩港（浜崎地区）・萩漁港（第三種漁港）が立地しています。

3) 人口と世帯

- ・人口は14,077人、世帯数は7,277世帯です（令和4年3月末日現在）。
- ・全市に占める人口構成比は31.9%、人口密度は24.1人/haです。
- ・人口、世帯数ともに減少傾向にあります。



▲人口の推移



5) 地域資源



【堀内周辺】

- ・重要伝統的建造物群保存地区の1つであり、萩の象徴である夏みかんと土塀の景観が多くみられます。
- ・毛利氏の萩城築城の頃につくられた上級武家地が今もなお歴史的まちなみとして現存しています。



【藍場川】

- ・藍場川は川島樋の口から橋本町・江向を経て平安古石屋町まで、約2.6kmを縫うように流れています。
- ・準景観重要河川に指定されており、藍場川が流れる川島地区は、城下町の生活の情緒を伝え残す数少ないエリアで、重点景観計画区域に指定されています。



【国道262号沿線地区】

- ・国道262号沿いの土原地区周辺等では、近年、商業施設等の立地が進んでいます。



【市道御許町唐樋線・弘法寺堀内線】

- ・萩市の中心拠点を通る道路であり、沿道には商業・業務系機能が集積しています。
- ・歩道や街路灯等、景観に配慮した道路整備がなされています。
- ・沿線にはアーケード街もあり、空き店舗等が目立ち衰退が懸念されましたが、近年では「プラタマチ」等の新たな取組も見られ、賑いが創出されています。



【萩・明倫学舎】

- ・日本最大級の木造校舎である萩・明倫学舎は萩の新たな観光拠点施設のみならず、産業交流拠点施設としても活用されています。



(2) まちづくりの問題・課題

項目	問題・課題
1) 土地利用	萩市で唯一の都市機能誘導区域が指定されており、中心市街地における新たな都市機能の誘導や複合施設の立地誘導等都市機能の強化による市街地の活性化が求められます。
	国道191号や国道262号等を軸とした幹線道路沿道地区については、中心市街地及びそのゲートウェイとして、更なる機能強化が求められます。
	重伝建地区や史跡萩城下町、藍場川周辺、寺町等においては、伝統的まちなみの保全・整備が求められるとともに、増加する空き家への対策が求められます。
	既成市街地内の住宅密集地においては、道路基盤が弱く未利用地等の残るところも見られます。また、空き家や空き地がランダムに発生する都市のスポンジ化の進行もみられます。菊ヶ浜は海水浴場として活用され、既存の宿泊施設等を活用した魅力ある海辺空間の形成が求められます。
2) 自然環境・景観	藩政時代からの歴史的まちなみの保存・継承が求められます。
	指月山や橋本川、松本川、菊ヶ浜等は、その自然環境や環境保全機能の維持とともに、より市民や観光客に親しまれる場としての整備が望まれます。
3) 道路・交通	藍場川等、地区内を流れる小河川や堀は、萩市の景観の特色となっているため、親水性の維持・向上が望まれます。
	周辺地区との連携を強化するとともに、観光ネットワークの向上を図るための道路整備が望まれます。
	重伝建地区等において、近世のまちなみや景観を保存し、景観形成を図っていくため、現行の道路空間の有効利用が必要です
	市街地において、狭隘な歩道や段差等により歩行者・自転車の安全で快適な交通環境が確保されていません。
	都市計画道路の長期未着手路線について、必要性等における検証が求められます。
4) 施設整備等	萩循環まあるパスの利便性の向上が望まれます。
	都市拠点の活性化に向けた市内公共交通の機能強化が望まれます。
	頻発・激甚化する自然災害への対策が必要です。
	清浄で安全な水を供給できる水道施設の整備が必要です。
	下水道の水洗化の促進が望まれます。
	「萩まちじゅう博物館」の中核的施設として、萩・明倫学舎や萩博物館の有効活用が求められます。
未開設の街区公園があり、その早期整備が望まれます。また、市民・観光客の憩いの場として、中央公園の有効活用が求められます。	
各施設の老朽化に伴う計画的な建替や改修等が望まれます。	
離島航路の発着する萩港（浜崎地区）の機能充実が望まれます。	



(3) まちづくりの方針

●まちづくりのテーマ

『萩市の顔にふさわしい近世の都市遺産と共生したまちづくり』

～にぎわいと伝統が調和した個性と活力ある市街地形成～

●まちづくりの基本方針

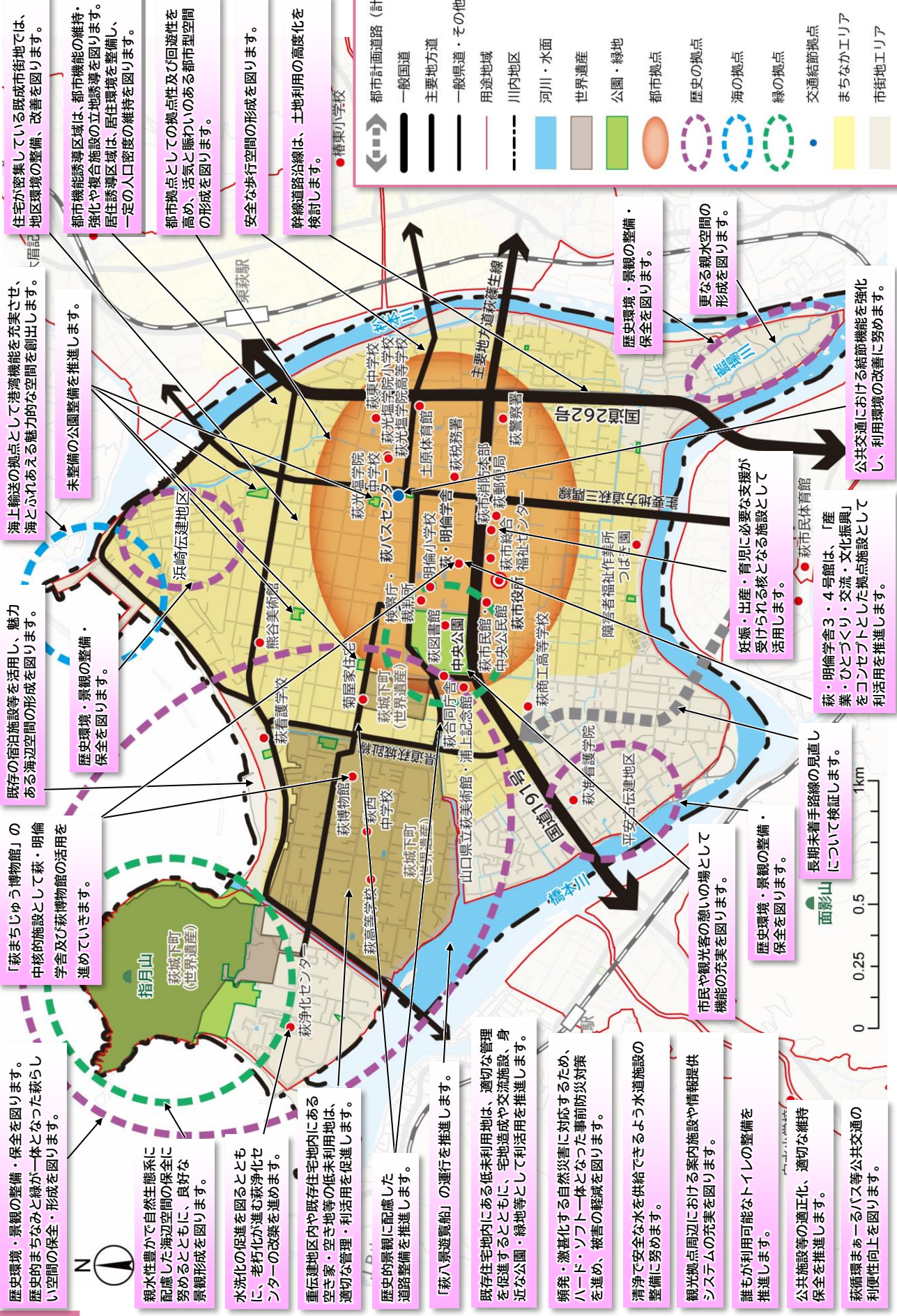
- ・萩市の顔としての役割を果たすよう商業・業務機能に加え、文化・交流・観光レクリエーション機能等の充実を図り、魅力ある中心市街地の形成に取り組みます。また、生活基盤等の居住環境を整備し、利便性を活かした暮らしやすい市街地づくりを推進します。
- ・藩政期以来継承されてきた歴史的文化遺産や都市構造、そこに培われてきた文化・伝統は川内地区のみならず萩市の貴重な財産であり、これらの維持・保全に努めるとともに、市民と観光客等が融合したまちづくりを目指します。
- ・独自の魅力をもつ歴史的文化遺産を活用し、「萩まちじゅう博物館」の実現を目指して、地区の特色を活かしたまちなみ整備と観光資源のネットワーク化の推進を図ります。

項目	方針
1) 土地利用	中心市街地では、都市拠点としての拠点性及び回遊性を高めるとともに、活気と賑わいのある都市型空間の形成を図ります。また、歩行空間のネットワーク化を推進し、中心商店街周辺に広がる歴史的まちなみとの連携強化を図ります。
	都市機能誘導区域については、立地適正化計画に基づく各種誘導施策により、行政、文化、子育て、商業等の都市機能の維持・強化や複合施設の立地誘導を図ります。
	居住誘導区域については、都市施設や生活基盤の整備等により、利便性が高く魅力ある居住環境を確保し、一定の人口密度の維持を図ります。
	国道191号や国道262号等の幹線道路沿線は、市街地を形成するため、土地利用の高度化を検討します。また、生活利便性を向上させるための店舗等、住宅地に隣接する沿道の立地特性にふさわしい施設の誘導を図ります。
	重伝建地区及び藍場川周辺、史跡萩城城下町等においては、生活環境の維持・改善に配慮しながら、伝統的まちなみの保全・整備を推進し、萩らしいまちなみ形成を図ります。また、寺町等においても、歴史的まちなみの保存・整備を検討します。
	重伝建地区等を除いた住宅が密集している既成市街地では、将来的な建て替え時において、建物のセットバックや地区計画等により地区環境の整備、改善を図ります。
	重伝建地区内や既存住宅地内にある空き家・空き地等の低未利用地は、空き家情報の提供や各種支援制度等により、適正な管理・利活用を促進します。
	既存住宅地内にある空き家・空き地等の低未利用地は、所有者による適切な管理を促進するとともに、狭小な土地の集約等により現代の住宅需要に見合った宅地造成や交流施設、身近な公園・緑地等としての利活用を促進します。
2) 自然環境・景観	菊ヶ浜は、指月山と一体となった良好な景観が保全されており、海水浴場や周辺に立地する既存の宿泊施設等を活用し、魅力ある海辺空間の形成を図ります。
	重伝建地区や史跡萩城城下町等における歴史的遺産をとりまく緑をはじめ、土堀と一体的に萩固有の景観として親しまれている夏みかん畑や生垣・屋敷林、神社仏閣の境内に残る社寺林等について、歴史的まちなみと緑が一体となった萩市を特徴づける空間としての保全・形成を図ります。
	北長門海岸国定公園区域に属する菊ヶ浜の海岸や指月山等については、親水性豊かで自然生態系に配慮した海辺空間の保全に努めるとともに、良好な景観形成を図ります。
	河川景観を活用し、萩の歴史や自然を歩いて見て回れる周遊型遊歩道となるよう、橋本川の河道（水辺の遊歩道）を維持・保全するとともに、川面から水辺景観を楽しむことができる「萩八景遊覧船」の運行を推進します。
3) 道路・交通	藍場川等、かつて水運や農業用水として活用された小河川や堀は、萩市の景観の特色となっているため、更なる親水空間の形成を図ります。
	萩市の歴史的な特質である近世のまちなみを保存するとともに、防災機能や観光ネットワーク機能の向上を図るため、歴史的景観に配慮した道路整備や電線類の地中化を推進します。主要観光施設を結ぶ道路の美装化や緑化を推進し、歴史的まちなみと調和のとれた道路景観の形成を図ります。



項目	方針
3) 道路・交通	既成市街地内の生活道路においては、歩道の段差解消等、安全性の高い歩行者・自転車空間の形成を図ります。
	都市計画決定後、長期にわたり事業が未着手の都市計画道路については、社会情勢の変化や都市政策の転換による必要性等について検証し、都市計画の見直しを行います。
	萩循環まあるバス等公共交通の利便性向上を図ります。
	観光拠点の周辺部における案内看板を含む観光誘導案内施設や、ICT等を活用した情報提供等のシステムの充実を図ります。
	バスセンター、定期船乗り場など公共交通における結節機能を強化し、施設のユニバーサルデザインへの配慮など、利用環境の改善に努めます。
4) 施設整備等	頻発・激甚化する自然災害に対応するため、災害リスクの高い区域における開発の抑制、移転の促進、「阿武川水系流域治水プロジェクト」との連携強化など、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を進め、被害の軽減を図ります。
	清浄で安全な水を供給できるよう水道施設の整備に努めます。
	水洗化の促進を図るとともに、老朽化が進む萩浄化センターの改築を進めます。
	萩・明倫学舎及び萩博物館については、「おたから」の調査研究、情報発信の場として、また市内の数多くの文化財や文化財関連施設を密接に結びつけていく「萩まちじゅう博物館」の中核的施設として有効活用を図ります。
	萩・明倫学舎3・4号館は、「産業・ひとづくり・交流・文化振興」をコンセプトとした拠点施設として利活用を推進します。
	萩市総合福祉センターに開設された子育て世代包括支援センター（HAGU）については、妊娠・出産・育児における不安に対する相談体制の充実を図るとともに、必要な支援が受けられる体制づくりの核となる施設として活用します。
	中央公園については、市民や観光客の憩いと交流の場として活用するとともに、官民連携の視点も検討しながら市民のニーズに合わせた機能の充実を図ります。
	街区公園については、未整備の公園整備を推進するとともに、市民ニーズやユニバーサルデザインに対応した整備を推進します。また、空地活用等による身近な公園機能の確保を図ります。
	「萩市公共施設等総合管理計画」に基づき、公共施設等の適正化、適切な維持保全を推進します。
	海上輸送の拠点となる萩港（浜崎地区）については、機能の維持・充実を図るとともに、マリーナ萩等の周辺施設と連携して、港湾機能が充実し、海とふれあえる魅力的な空間を創出します。
誰もが利用しやすい施設づくりの更なる推進や観光客等へのおもてなしの充実を図るため、オストメイト対応トイレの設置等を含め、誰もが利用可能なトイレの整備を推進します。	

5) まちづくりの方針図



住宅が密集している既成市街地では、地区環境の整備、改善を図ります。

都市機能誘導区域は、都市機能の維持・強化や複合施設の立地誘導を図ります。居住誘導区域は、居住環境を整備し、一定の人口密度の維持を図ります。

都市拠点としての拠点性及び回遊性を高め、活気と賑わいのある都市型空間の形成を図ります。

安全な歩行空間の形成を図ります。

幹線道路沿線は、土地利用の高度化を検討します。

都市計画道路 (計画路線)

- 一般国道
- 主要地方道
- 一般県道・その他
- 用途地域
- 川内地区
- 河川・水面
- 世界遺産
- 公園・緑地
- 都市拠点
- 歴史の拠点
- 海の拠点
- 緑の拠点
- 交通結節拠点
- まちなかエリア
- 市街地エリア

海上輸送の拠点として港湾機能を充実させ、海とつながる魅力的な空間を創出します。

未整備の公園整備を推進します。

歴史環境・景観の整備・保全を図ります。

既存の宿泊施設等を活用し、魅力ある海辺空間の形成を図ります。

「秋まちじゅう博物館」の中核的施設として秋・明倫学舎及び秋博物館の活用を進めていきます。

親水性豊かで自然生態系に配慮した海辺空間の保全に努めるとともに、良好な景観形成を図ります。

水洗化の促進を図るとともに、老朽化が進む秋浄化センターの改築を進めます。

重丘建地区内や既存住宅地内にある空き家・空き地等の低未利用地は、適切な管理・利活用を促進します。

歴史的景観に配慮した道路整備を推進します。

「秋八景遊覧船」の運行を推進します。

既存住宅地内にある低未利用地は、適切な管理を促進するとともに、宅地造成や交流施設、身近な公園・緑地等として利活用を推進します。

頻発・激甚化する自然災害に対応するため、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を進め、被害の軽減を図ります。

清浄で安全な水を供給できるよう水道施設の整備に努めます。

観光拠点周辺における案内施設や情報提供システムの充実を図ります。

誰もが利用可能なトイレの整備を推進します。

公共施設等の適正化、適切な維持保全を推進します。

秋循環まあるバス等公共交通の利便性向上を図ります。

歴史環境・景観の整備・保全を図ります。

更なる親水空間の形成を図ります。

妊娠・出産、育児に必要な支援が受けられる核となる施設として活用します。

秋・明倫学舎3・4号館は、「産業・ひとづくり・交流・文化振興」をコンセプトとした拠点施設として利活用を推進します。

公共交通における結節機能を強化し、利用環境の改善に努めます。

市民や観光客の憩いの場としての機能を充実を図ります。

歴史環境・景観の整備・保全を図ります。

長期未着手路線の見直しについて検証します。



2 椿東地区

椿東地区

(1) 地区の概況

椿東地区は阿武川下流の三角州の東方に位置し、大正12年に萩市と合併するまでは椿東村として存在していました。

明治維新胎動の地といわれる萩の原点である松下村塾をはじめ、吉田松陰誕生地・墓所、伊藤博文旧宅等、数多くの文化財が点在しており、萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、松下村塾は世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産に登録されています。

現在は、松本川沿いの平坦地を中心に市街地が形成され、住商工の機能が集積しています。JR山陰本線東萩駅の東側には、萩市内で唯一、工業地区が指定されています。

将来的には山陰道大井・萩道路の萩東インターチェンジ（仮称）の設置が計画されています。



1) 自然的条件

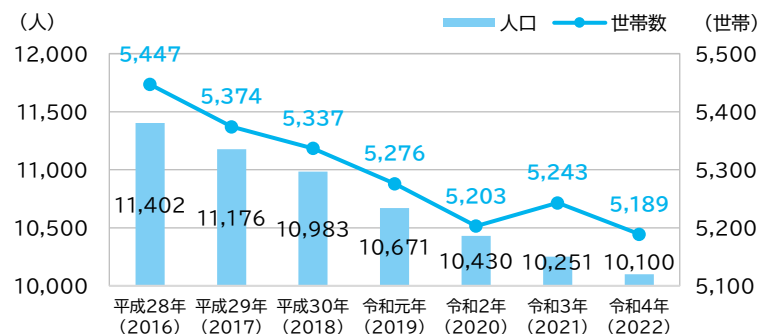
- ・地区の大半は山林となっており、松本川沿いの平坦地に市街地が形成されています。
- ・地区の北側は日本海に面しており、西側は川内地区・椿地区、東側は大井地区・福栄地域、南側は川上地域と接しています。

2) 土地利用・産業動向

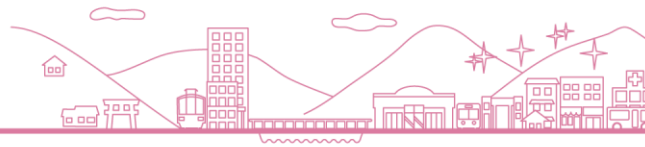
- ・面積は2,567haで、一部に用途地域、居住誘導区域が指定されています。
- ・地目別土地利用は、地区東部の大部分が自然的土地利用となっています。
- ・松本川沿いの平野部を中心に住宅や商業地等が立地しています。
- ・東萩駅東側に工業地区が指定されており、小規模な工場等が立地していますが、近年、商業施設や住宅の立地が増加しています。
- ・萩漁港（第三種漁港）、萩港（潟港地区）が立地しています。
- ・明治維新ゆかりの地・萩焼発祥の地として多数の観光客が訪れる観光拠点です。

3) 人口と世帯

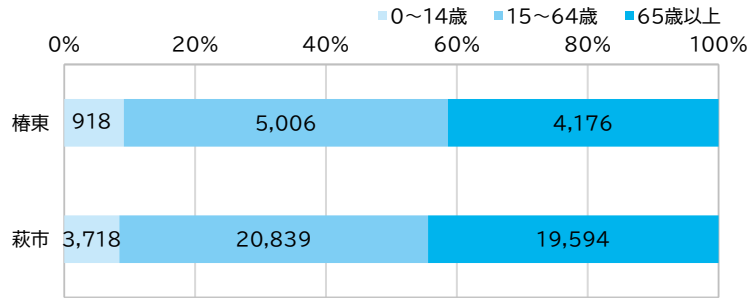
- ・人口は10,100人、世帯数は5,189（人）世帯です（令和4年3月末日現在）。
- ・全市に占める人口構成比は22.9%、人口密度は3.9人/haです。
- ・人口、世帯数ともに減少傾向にあります。



▲人口の推移



- ・年齢別の人口構成は、年少人口9.1%、生産年齢人口49.6%、老年人口41.3%となっています。

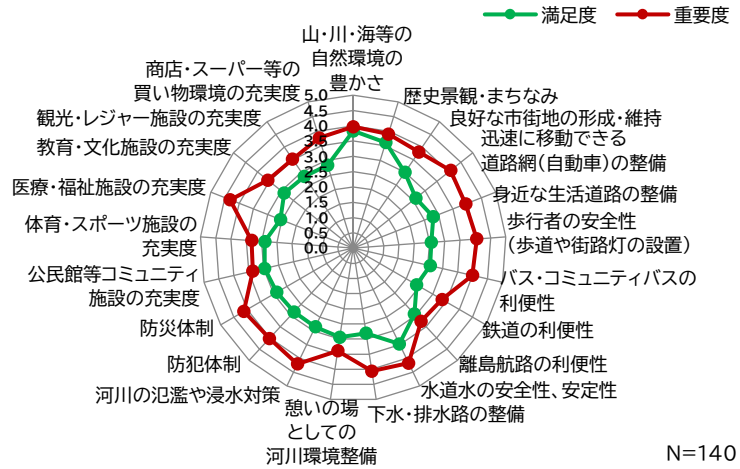


▲年齢別人口構成

資料：萩市の人口

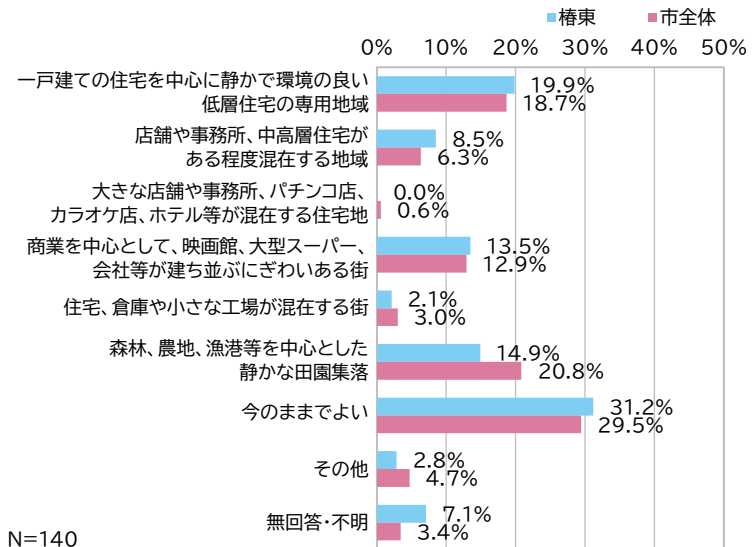
4) 住民意向

- ・満足度は、「自然環境の豊かさ」、重要度は「医療・福祉施設の充実度」が最も高くなっています。
- ・満足度が低いのは「鉄道の利便性」「歩行者の安全性」「医療・福祉施設の充実度」等となっています。



▲住環境の満足度・重要度 (N=140)

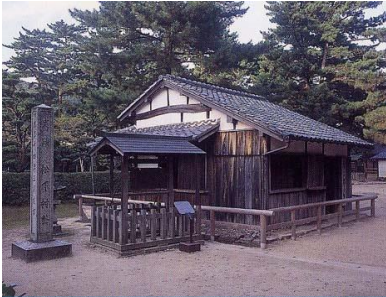
- ・地区の将来像は「今のままで良い」が最も多く回答の3割を占め、次いで「一戸建ての住宅を中心に静かで環境の良い低層住宅の専用地域」となっています。



▲望ましい地区の将来像 (N=140)



5) 地域資源



【松下村塾】

- ・吉田松陰を祀った松陰神社（明治40年創建）の境内に松下村塾があり、多くの観光客が訪れています。



【県道萩川上線】

- ・椿東地区の県道萩川上線沿いは、近年、商業施設等の立地や宅地開発が進んでいます。



【道の駅萩しーまーと】

- ・国土交通省により地域活性化の拠点として特に優れた「全国モデル道の駅」6か所の1つに選定されました。



【JR山陰本線東萩駅】

- ・萩市の代表駅です。
- ・市街地再開発事業が実施済みであり、駅前広場等が整備されています。
- ・駅構内には観光案内所が整備され、周辺にはバスの発着場、ホテル、飲食店が立地するなど、萩観光の中心駅ともなっています。



【田床山】

- ・萩市街地の東側にある小高い山で、萩市三角州を一望に観ることができるポイントです。
- ・海岸部と島しょ部とともに、田床山周辺は北長門海岸国定公園の指定を受けています。

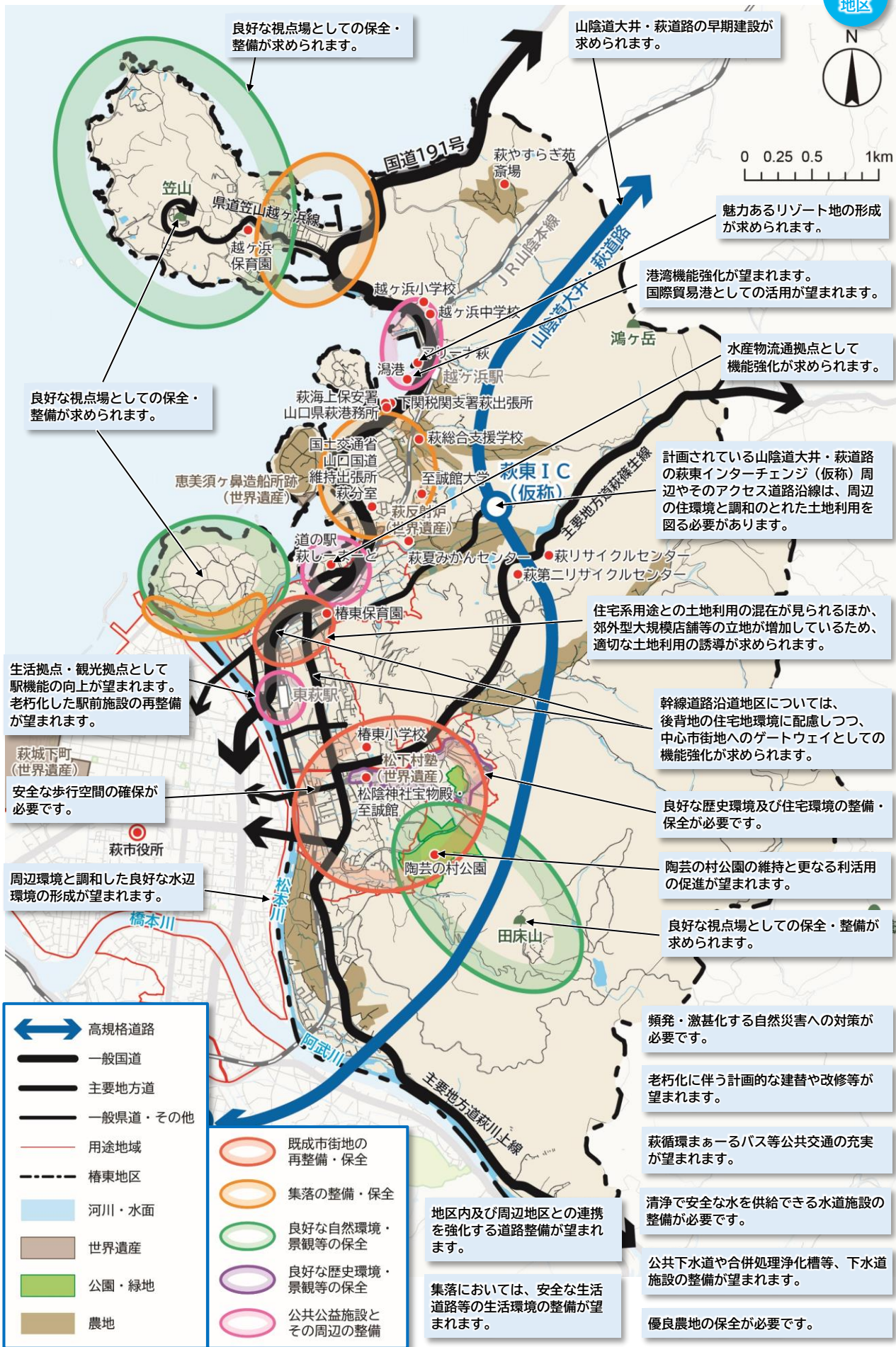


(2) まちづくりの問題・課題

項目	問題・課題
1) 土地利用	<p>新たに計画されている山陰道大井・萩道路の萩東インターチェンジ（仮称）周辺やそのアクセス道路沿線は、新たな萩の玄関口として無秩序な開発を抑制し、周辺の住環境と調和のとれた土地利用を図る必要があります。</p> <p>国道191号や県道萩川上線を軸とした幹線道路沿道地区については、後背地の住宅地環境に配慮しつつ、中心市街地へのゲートウェイとしての機能強化が求められます。</p> <p>農漁村集落においては、下水道や道路整備等の生活環境の整備が必要です。</p> <p>東萩駅東側の工業地においては、住宅系用途との土地利用の混在や商業施設の立地が見られることから、適切な土地利用の検討を図る必要があります。</p> <p>萩漁港沿岸にはマリナーや海浜公園等が立地しており、これらを活用した魅力あるリゾート地の形成が求められます。</p> <p>旧松本村地区においては、維新のふるさととして、今後も歴史的景観を保全していくことが望まれます。</p> <p>地区内にある優良農地については、積極的に保全を図る必要があります。</p> <p>地区の大半を占める山林等の保全を図る必要があります。</p>
2) 自然環境・景観	<p>丘陵地や松陰誕生地、田床山、笠山周辺等については、その自然環境や環境保全機能の維持・活用を検討し、より市民や観光客に親しまれる場としていくことが望まれます。</p> <p>田床山、笠山、鶴江台等の緑地は、市街地や海を眺望できる重要な視点場としても保全・整備が必要です。</p> <p>松本川については、周辺環境と調和した良好な水辺環境の形成が望まれます。</p> <p>萩漁港は、周辺の漁村集落と一体となった特色ある景観を形成しており、こうした漁港景観の保全・整備が求められます。</p>
3) 道路・交通	<p>国道191号は地区の骨格道路であるとともに、通過交通の多い路線であることから、しばしば交通渋滞を引き起こしている箇所もあります。また、海岸沿いに走っている区間が多いため、災害に強く使いやすい道路として、山陰道大井・萩道路の早期整備が求められます。また、山陰道大井・萩道路の萩東インターチェンジ（仮称）から市街地や観光地を結ぶアクセス道路の早期整備が望まれます。</p> <p>地区内及び周辺地区との連携を強化する道路整備が望まれます。</p> <p>住宅地等において、狭隘な歩道や段差等により歩行者・自転車の安全で快適な交通環境が確保されていません。</p> <p>鶴江台や越ヶ浜周辺の漁業集落内では、安全な生活道路の整備等が不十分です。</p> <p>萩循環まあるバス等公共交通の充実が望まれます。</p> <p>J R山陰本線東萩駅周辺においては、萩市の交通結節点として駅機能の向上が求められるとともに、地区の生活拠点・観光拠点としての機能充実が求められます。</p>
4) 施設整備等	<p>頻発・激甚化する自然災害への対策が必要です。</p> <p>清浄で安全な水を供給できる水道施設の整備が必要です。</p> <p>公共下水道や合併処理浄化槽等、下水道施設の整備が望まれます。</p> <p>東萩駅において、老朽化した駅前施設の再整備が望まれます。</p> <p>陶芸の村公園の維持・利活用が望まれます。</p> <p>国際貿易港として潟港の活用が望まれます。</p> <p>マリナー萩の港湾機能強化が望まれます。</p> <p>各施設の老朽化に伴う計画的な建替や改修等が望まれます。</p> <p>萩漁港や水産物地方卸売市場について、水産物流通拠点として機能強化が求められます。</p>



5) まちづくりの問題・課題図





(3) まちづくりの方針

●まちづくりのテーマ

『豊かな海と歴史遺産を活かした維新のまちづくり』

～市街地・漁業集落が調和した、誰もが快適に過ごせる都市空間の整備～

●まちづくりの基本方針

- ・将来は山陰道大井・萩道路が地区を通る予定ですが、今後も世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産をはじめとした貴重な歴史遺産や豊かな自然環境を維持・保全するとともに、良好な海辺のリゾート地としての魅力の向上を図るなど、景観や環境に配慮した暮らしやすいまちづくりを進めます。
- ・当地区内に計画されている山陰道大井・萩道路の萩東インターチェンジ（仮称）周辺やそのアクセス道路沿線は、周辺の住宅環境を保全しながら、本市の玄関口としてふさわしい土地利用を誘導します。
- ・中心市街地等に位置する都市機能と連携し、観光レクリエーション機能の充実を図りつつ、日常生活に密着した機能を維持し、住商工のバランスのとれた土地利用を推進します。

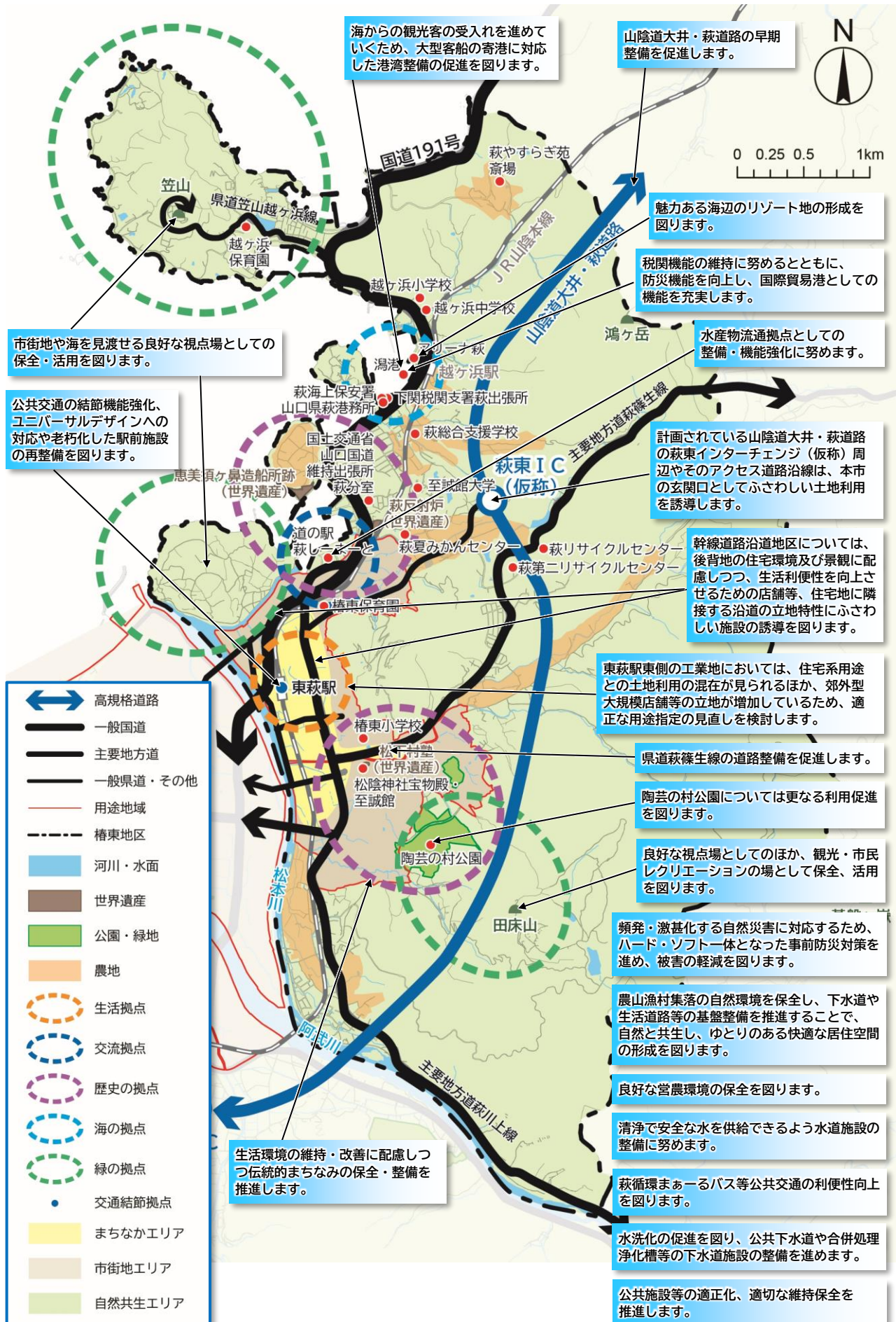
項目	方針
1) 土地利用	山陰道大井・萩道路の萩東インターチェンジ（仮称）周辺やアクセス道路沿線においては、無秩序な開発等を抑制するため、土地利用の規制・誘導方策を検討します。
	国道191号や県道萩川上線を軸とした幹線道路沿道地区については、後背地の住宅環境及び景観に配慮しつつ、生活利便性を向上させるための店舗等、住宅地に隣接する沿道の立地特性にふさわしい施設の誘導を図ります。
	東萩駅東側の工業地においては、近年、住宅系用途との土地利用の混在がみられるほか、郊外型大規模店舗等の立地が増加しているため、適正な用途指定の見直しを検討します。
	沿岸部や山間部における既存集落においては、漁港・山林・田園景観と調和した農漁村集落の自然環境を保全し、下水道や安全な生活道路の整備等の基盤整備を推進することで、自然と共生し、ゆとりのある快適な居住空間の形成を図ります。
	萩漁港・萩港沿岸に立地するマリナーや海浜公園、道の駅萩シーマーと等を活用し、魅力ある海辺のリゾート地の形成を図ります。
	旧松本村地区においては、生活環境の維持・改善に配慮しながら、歴史的景観の保全・整備を推進し、維新のふるさとにふさわしいまちなみ形成を図ります。
	良好な営農環境を保全するとともに、優良農地については積極的な保全を図ります。地区の大半を占める山林等の保全に努めます。
2) 自然環境・景観	鶴江台、田床山周辺等、市街地に近接し、良好な景観や自然的環境が残されている区域などの自然緑地については、法規制等による環境保全方策を検討し、多数分布する貴重な歴史遺産とともに保全を図ります。
	市街地に近接し、眺望景観を形成している田床山や、丘陵地の自然環境を活かした陶芸の村公園等については、観光及び市民レクリエーションの場として保全・活用を図ります。また、北長門海岸国定公園の中心に位置する笠山については、貴重な椿群生林や天然記念物であるコウライタチバナ自生地等の保全に努めるとともに、良好な視点場として適切な維持と利活用を図ります。
	松本川については、うるおいある河川景観の形成を図るとともに、白魚の還る川として水質の保全等に努めます。
	萩漁港については、周辺の漁村集落と一体となった趣ある景観形成を図ります。
3) 道路・交通	山陰道大井・萩道路の早期整備を促進するとともに、国道191号をはじめとした主要幹線道路については災害に強いまちづくりを推進し、交通ネットワークの充実を図り、他地区との広域連携の強化に努めます。
	地区内における都市的土地利用の促進及び周辺地区との連携強化に向け、県道萩川上線、県道萩篠生線等の道路整備を促進します。
	既成市街地内の生活道路においては、歩道の段差解消や街路灯の設置等、安全性の高い歩行者・自転車空間の形成を図ります。
	萩循環まあるバス等公共交通の利便性向上を図ります。



項目	方針
3) 道路・交通	J R山陰本線萩駅においては、公共交通の結節機能強化を図るとともに、ユニバーサルデザインへの対応や老朽化した駅前施設の再整備により、地区の生活拠点として、また、観光拠点としての機能充実を図ります。
4) 施設整備等	<p>頻発・激甚化する自然災害に対応するため、災害リスクの高い区域における開発の抑制、移転の促進、「阿武川水系流域治水プロジェクト」との連携強化など、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を進め、被害の軽減を図ります。</p> <p>清浄で安全な水を供給できるよう水道施設の整備に努めます。</p> <p>水洗化の促進を図るとともに、公共下水道や合併処理浄化槽等の下水道施設の整備を進めます。</p> <p>陶芸の村公園については、多目的な公園施設の適切な維持管理に努めるとともに、更なる利用の促進を図ります。</p> <p>貿易港である潟港においては、税関機能の維持に努めるとともに、防災機能を向上し、国際貿易港としての機能充実を促進します。</p> <p>マリーナ萩を中心として、海からの観光客の受入れを進めていくため、大型客船の寄港に対応した港湾整備の促進を図ります。</p> <p>「萩市公共施設等総合管理計画」に基づき、公共施設等の適正化、適切な維持保全を推進します。</p> <p>萩漁港や水産物地方卸売市場については、水産物流通拠点としての整備・機能強化に努めます。</p>



5) まちづくりの方針図





3 椿地区

椿地区

(1) 地区の概況

椿地区は萩市三角州の南方に位置し、大正12（1923）年に萩市と合併するまでは椿村として存在していました。

江戸時代には藩主の「御成道」として開かれた萩往還（城下町萩と瀬戸内の港三田尻を結ぶ）が通り、参勤交代道として、また庶民にとっても山陰と山陽を結び陰陽連絡道として重要な位置づけにありました。

現在は、山陰道萩・三隅道路に萩インターチェンジが整備され、山口方面や長門方面から萩市中心拠点への玄関口となっている地区であり、幹線道路沿いに集落が形成されています。



1) 自然的条件

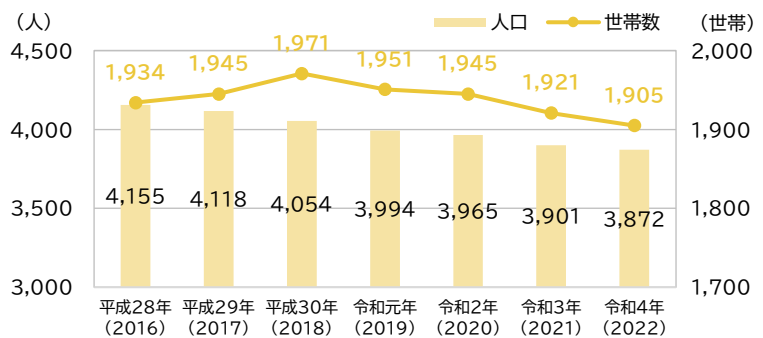
- ・地区の南部は山林となっており、阿武川・橋本川沿いの平坦地に農地が広がり、集落が形成されます。
- ・地区の北側は川内地区、東側は椿東地区、西側は山田地区、南側は旭地域と接しています。

2) 土地利用・産業動向

- ・面積は1,536haで、全域が都市計画区域であり、一部に用途地域が指定されています。
- ・地目別土地利用は、地区の大部分が自然的土地利用となっています。
- ・国道262号沿いを中心に住宅や商業・業務施設等が位置しています。
- ・県道萩秋芳線沿道では、大型店舗の進出がみられます。
- ・山陰道萩・三隅道路萩インターチェンジが整備されています。

3) 人口と世帯

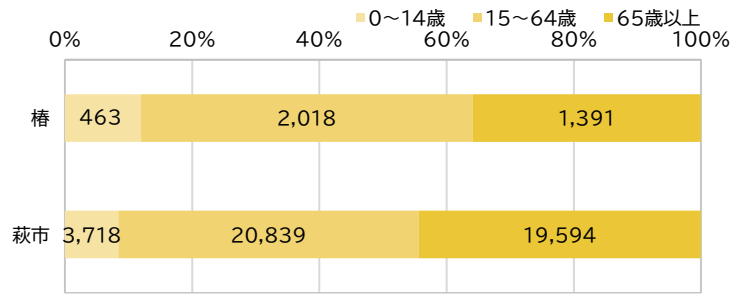
- ・人口は3,872人、世帯数は1,905世帯です（令和4年3月末日現在）。
- ・全市に占める人口構成比は8.8%、人口密度は2.5人/haです。
- ・人口は減少傾向ですが、世帯数は横ばい傾向になっています。



▲人口の推移



・年齢別の人口構成は、萩市全体より年少人口の割合が高く、老年人口の割合が低くなっており、比較的平均年齢の低い地区であると言えます。年少人口12.0%、生産年齢人口52.1%、老年人口35.9%となっています。

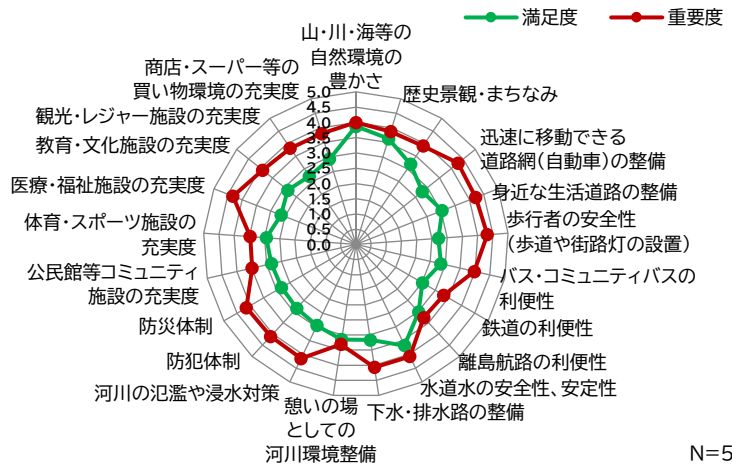


▲年齢別人口構成

資料：萩市の人口

4) 住民意向

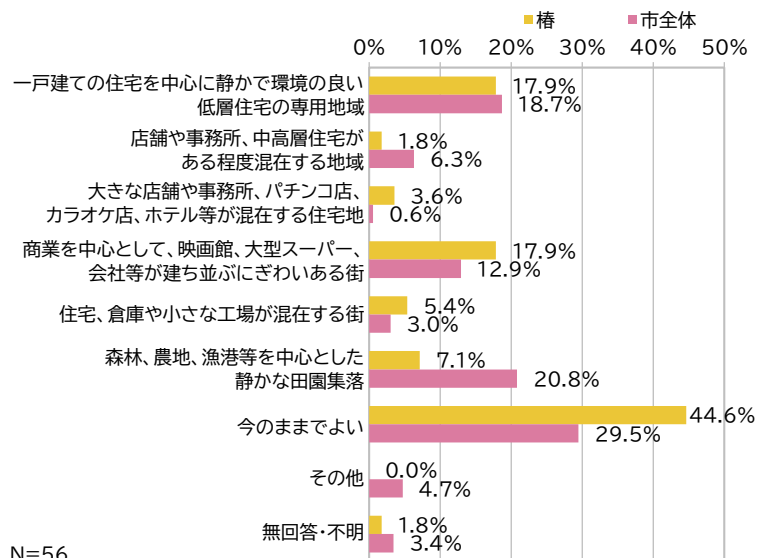
・満足度は、「自然環境の豊かさ」、重要度は「医療・福祉施設の充実度」が最も高くなっています。
 ・満足度が低いのは「鉄道の利便性」「医療・福祉施設の充実度」「観光・レジャー施設の充実度」等となっています。



N=56

▲住環境の満足度・重要度 (N=56)

・地区の将来像は「今のままで良い」が4割を占め、次いで「一戸建ての住宅を中心に静かで環境の良い低層住宅の専用地域」「商業を中心として、映画館、大型スーパー、会社等が建ち並ぶにぎわいある街」となっています。



N=56

▲望ましい地区の将来像 (N=56)



5) 地域資源

椿地区



【JR山陰本線萩駅】

- ・萩駅舎は、大正14年に洋館駅の傑作として建てられ、登録有形文化財となっています。
- ・館内は展示館として公開され、日本の「鉄道の父」と称される井上勝に関する資料なども展示しています。



【JR山陰本線萩駅の南側】

- ・用途地域は指定されていませんが、一戸建てやアパートの立地のほか、農業振興地域にある優良な農地が広がっています。



【山陰道萩・三隅道路萩インターチェンジ周辺】

- ・山陰道萩・三隅道路萩インターチェンジ周辺には商業業務系施設が立地しています。



【国道262号と阿武川】

- ・田畑が広がり、一戸建てが点在しています。
- ・運動公園萩ウェルネスパークが整備され、沿道には、変電所や製造業の工場等も立地しています。



【道の駅萩往還】

- ・歴史の道「萩往還」沿いにある道の駅で、物産販売施設や農産物直売所、レストランなどのほか松陰記念館が併設され、多くの観光客が訪れます。

(2) まちづくりの問題・課題

項目	問題・課題
1) 土地利用	萩インターチェンジ周辺は商業施設や農地が混在していますが、山陰道大井・萩道路や小郡萩道路開通に伴う交通利便性の向上から更なる市街化動向が高まることが想定されるため、適正な土地利用の誘導が求められます。
	国道262号を軸とした幹線道路沿道地区については、後背地の住宅地環境及び景観に配慮しつつ、住宅地に隣接する沿道の立地特性にふさわしい土地利用が求められます。
	既存の市街地や集落においては、下水道や道路整備等の生活環境の整備が望まれます。
	阿武川沿いや山間部における既存集落については、山林・田園景観と調和した生活環境の向上と保全が望まれます。
	地区内にある優良農地については積極的に保全を図る必要があります。 地区の大半を占める山林等の保全を図る必要があります。
2) 自然環境・景観	豊かな山林や河川、地区の自然緑地については積極的に保全を図る必要があります。
	阿武川、橋本川には良好な自然環境が残っており、親水空間としての活用が求められます。また、阿武川沿いの霧口河川公園は、その水辺空間の十分な活用が望まれます。
	萩往還が縦断しており、その積極的な保全と観光資源としての活用が求められます。
	県道萩秋芳線及び国道262号周辺は、萩市市街地への玄関口として良好な景観の形成が求められます。
3) 道路・交通	山陰道大井・萩道路、小郡萩道路の広域連携を強化する道路の整備促進が求められます。
	橋本川周辺の市街地内では、生活道路が狭いため、安全性の向上が求められます。
	都市計画道路の長期未着手路線について、必要性等における検証が求められます。
	萩駅の機能向上とともに、有効的な活用が求められています。 萩循環まあるバス等公共交通の充実が望まれます。
4) 施設整備等	頻発・激甚化する自然災害への対策が必要です。
	清浄で安全な水を供給できる水道施設の整備が必要です。
	公共下水道や合併処理浄化槽等の下水道施設の整備促進が望まれます。
	萩保健医療圏唯一の公立病院である萩市民病院が立地しており、今後も安定した医療提供が求められます。
	萩ウェルネスパークの更なる利用促進が求められます。 各施設の老朽化に伴う計画的な建替や改修等が望まれます。



(3) まちづくりの方針

●まちづくりのテーマ

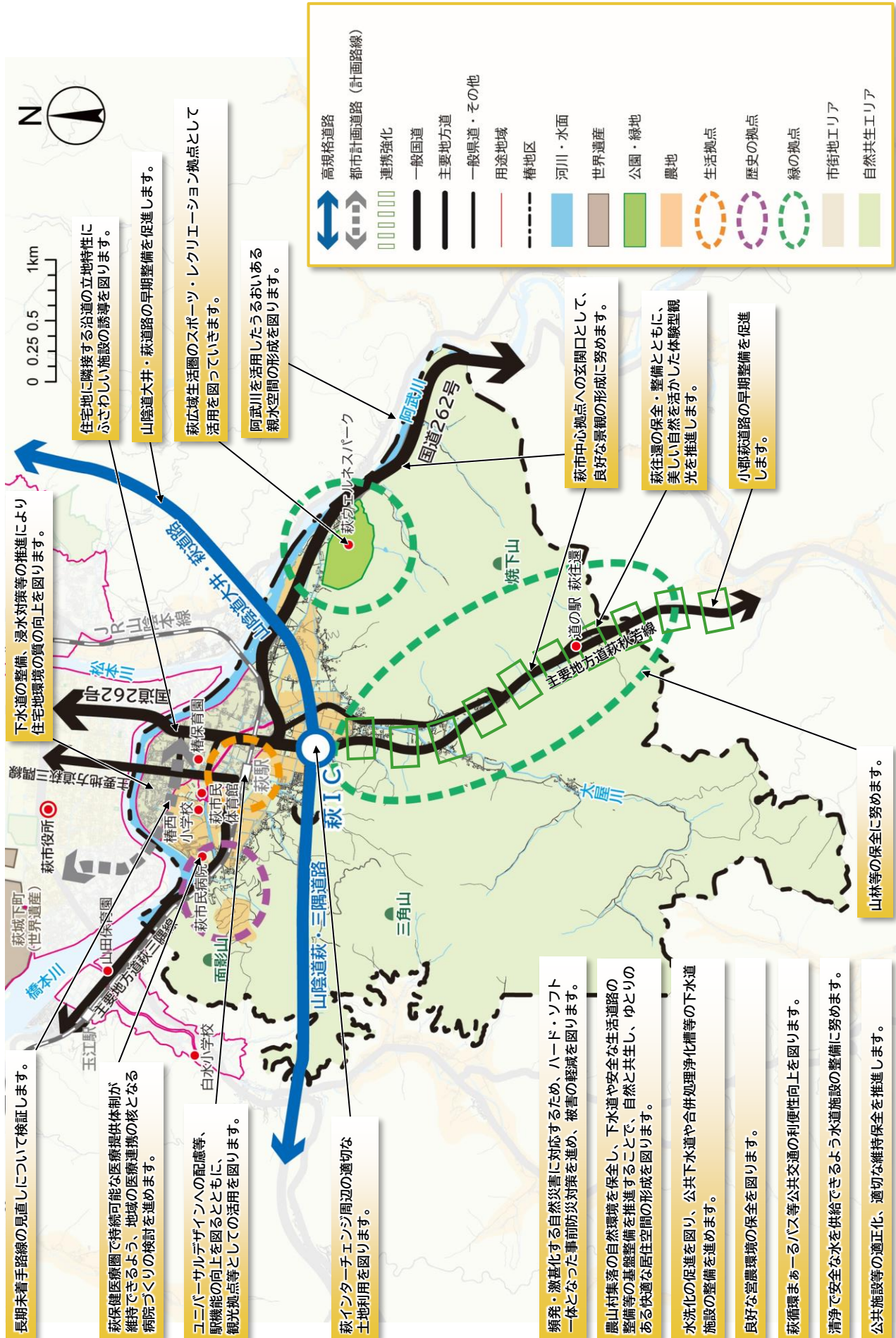
『水と緑を活用した住環境と産業の調和するまちづくり』
 ～豊かな自然環境と良好な交通条件を活かした利便性の高い住環境の形成～

●まちづくりの基本方針

- ・山陰道萩・三隅道路萩インターチェンジが立地するほか、山陰道大井・萩道路や小郡萩道路の整備が進められており、山口方面や長門方面から萩市中心市街地への玄関口として良好な自然・歴史的環境と調和するまちづくりを進めます。
- ・豊かな自然環境を背景に、地区の個性として萩往還をはじめ歴史・文化的遺産を多く有する地区でもあることから、これら豊かな自然と歴史・文化を大切にした風格漂うまちづくりを目指します。

項目	方針
1) 土地利用	開発が想定される萩インターチェンジ周辺においては、用途地域の指定や特定用途制限地域の適用を検討するなど、適切な土地利用を図ります。
	国道262号、県道萩三隅線を軸とした幹線道路沿道地区については、後背地の住宅環境及び景観に配慮しつつ、生活利便性を向上させるための店舗等、住宅地に隣接する沿道の立地特性にふさわしい施設の誘導を図ります。
	萩駅北側の既存の市街地においては、地区住民にとっての安全性や利便性、快適性の向上を目指し、下水道の整備や、浸水対策等の推進により生活環境の充実を図ります。
	阿武川沿いや山間部における既存集落においては、山林・田園景観と調和した農山村集落の自然環境を保全し、下水道や安全な生活道路の整備等の基盤整備を推進することで、自然と共生し、ゆとりのある快適な居住空間の形成を図ります。
	良好な営農環境を保全するとともに、優良農地については積極的な保全を図ります。地区の大半を占める山林等の保全に努めます。
2) 自然環境・景観	南部に広がる山林や優良農地については、水源かん養・国土保全、また景観形成要素として、その保全を図ります。
	阿武川については、うるおいある河川景観の形成を図るとともに、霧口河川公園の機能充実等、憩いの場を提供するオープンスペースや歩行者動線の整備等、積極的な自然資源の活用を推進します。
	萩往還を活用したウォーキング等、美しい自然を活かした体験型観光を推進します。
	県道萩秋芳線及び国道262号周辺は、萩市中心拠点への玄関口として、良好な景観の形成に努めます。
3) 道路・交通	山陰道大井・萩道路、小郡萩道路の早期整備を促進し、交通ネットワークの充実を図り、他地区との連携の強化に努めます。
	既成市街地内の生活道路においては、歩道の段差解消や街路灯の設置等、安全性の高い歩行者・自転車空間の形成を図ります。
	都市計画決定後、長期にわたり事業が未着手の都市計画道路については、社会情勢の変化や都市政策の転換による必要性等について検証し、都市計画の見直しを行います。
	本地区の玄関口となるJR山陰本線萩駅周辺においては、ユニバーサルデザインへの配慮等、駅機能の向上を図るとともに、観光拠点等としての活用を図ります。
	萩循環まあるバス等公共交通の利便性向上を図ります。
4) 施設整備等	頻発・激甚化する自然災害に対応するため、災害リスクの高い区域における開発の抑制、移転の促進、「阿武川水系流域治水プロジェクト」との連携強化など、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を進め、被害の軽減を図ります。
	清浄で安全な水を供給できるよう水道施設の整備に努めます。
	水洗化の促進を図るとともに、公共下水道や合併処理浄化槽等の下水道施設の整備を進めます。
	萩保健医療圏で持続可能な医療提供体制が維持できるよう、地域の医療連携の核となる病院づくりの検討を進めます。
	萩ウェルネスパークの利用を促進し、萩広域生活圏のスポーツ・レクリエーション拠点として十分な活用を図っていきます。
	「萩市公共施設等総合管理計画」に基づき、公共施設等の適正化、適切な維持保全を推進します。

5) まちづくりの方針図





4 山田地区

(1) 地区の概況

山田地区は阿武川下流の三角州の西方に位置し、大正12年に萩市と合併するまでは山田村として存在していました。

現在は、玉江川及び橋本川の河口に開けた平坦地及び国道490号沿いを中心として農漁村集落が点在し、農業・水産業を主産業とする地区となっています。

玉江浦「天狗拍子」や「おしくらごう」等、固有の文化・風習が継承されている地区でもあります。



1) 自然的条件

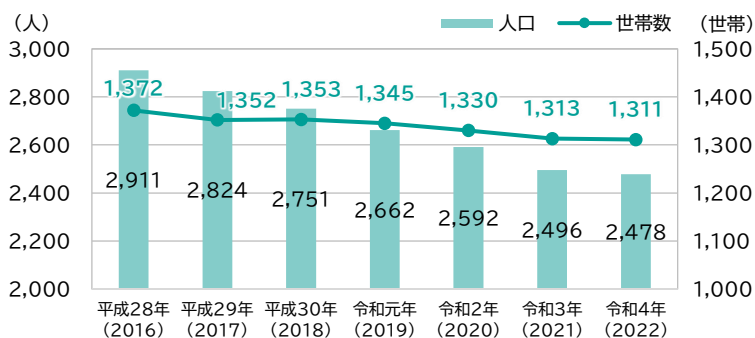
- ・地区の大半は山林となっており、玉江川及び橋本川河口付近及び国道490号沿いの平坦地に市街地・集落が形成されています。
- ・地区の北側は日本海に面しており、東側は川内地区・椿地区、西側は三見地区、南側は木間地区と接しています。

2) 土地利用・産業動向

- ・面積は1,235haで、地区の一部に用途地域が指定されています。
- ・地目別土地利用は、地区の大部分が自然的土地利用となっています。
- ・玉江川河口付近及び国道490号沿いに住宅が位置しています。
- ・玉江漁港（第二種漁港）が立地しています。

3) 人口と世帯

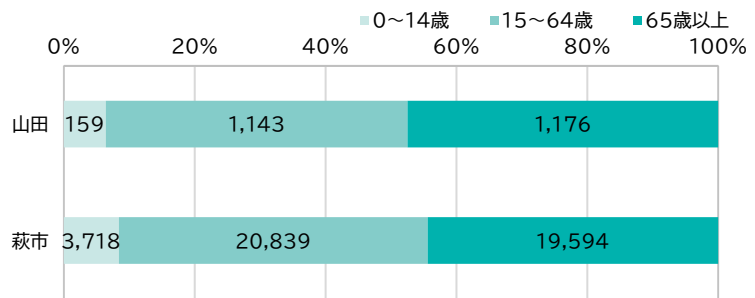
- ・人口は2,478人、世帯数は1,311世帯です（令和4年3月末日現在）。
- ・全市に占める人口構成比は5.6%、人口密度は2.01人/haです。
- ・人口は減少傾向にありますが、世帯数は横ばいで推移しています。



▲人口の推移



- ・年齢別の人口構成は、年少人口6.4%、生産年齢人口46.1%、老年人口47.5%となっています。

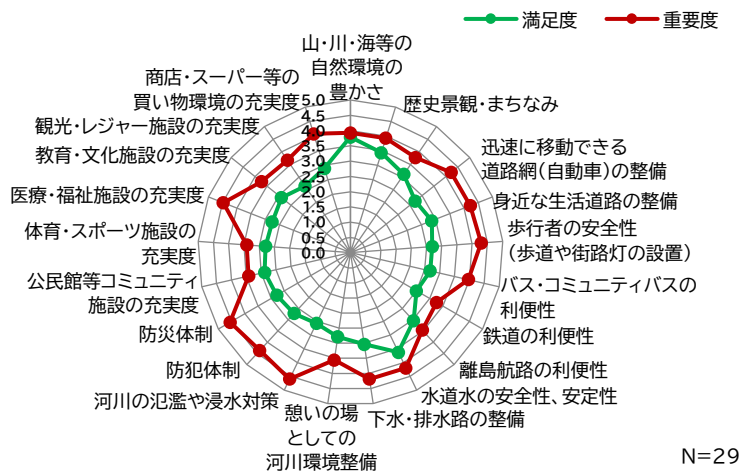


▲年齢別人口構成

資料：秋市の人口

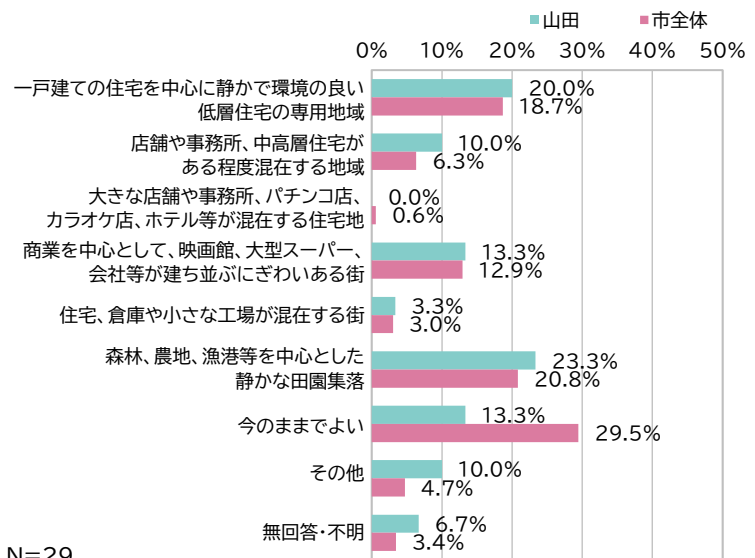
4) 住民意向

- ・満足度は「自然環境の豊かさ」、重要度は「防災体制」「河川の氾濫や浸水対策」が最も高くなっています。
- ・満足度が低いのは「鉄道の利便性」「医療・福祉施設の充実度」「河川の氾濫や浸水対策」等となっています。



▲住環境の満足度・重要度 (N=29)

- ・地区の将来像は「森林、農地、漁港等を中心とした静かな田園集落」が最も多く回答の2割を占め、次いで「一戸建ての住宅を中心に静かで環境の良い低層住宅の専用地域」が続いています。



▲望ましい地区の将来像 (N=29)



5) 地域資源

山田地区



【JR山陰本線玉江駅】

- ・無人駅ですが、萩城跡への最寄り駅であり、駅前の駐停車スペースにタクシーが待機しています。



【倉江・玉江浦地区】

- ・橋本川下流に沿った住宅密集地区で、道幅の狭い道路が多く残っています。
- ・かつては藩政時代からの遠洋漁業関係者が多くいましたが、近年は減少しています。



【おしくらごう（萩の和船大競漕）】

- ・伝統行事として、成年男子によって6月第1日曜日に実施される『おしくらごう』（和船競漕）が継承されています。



【玉江地区】

- ・面影山の麓を走る国道191号及び玉江川沿いに、住宅や工場等が立地しています。
- ・一部に用途地域が指定されています。



【国道490号】

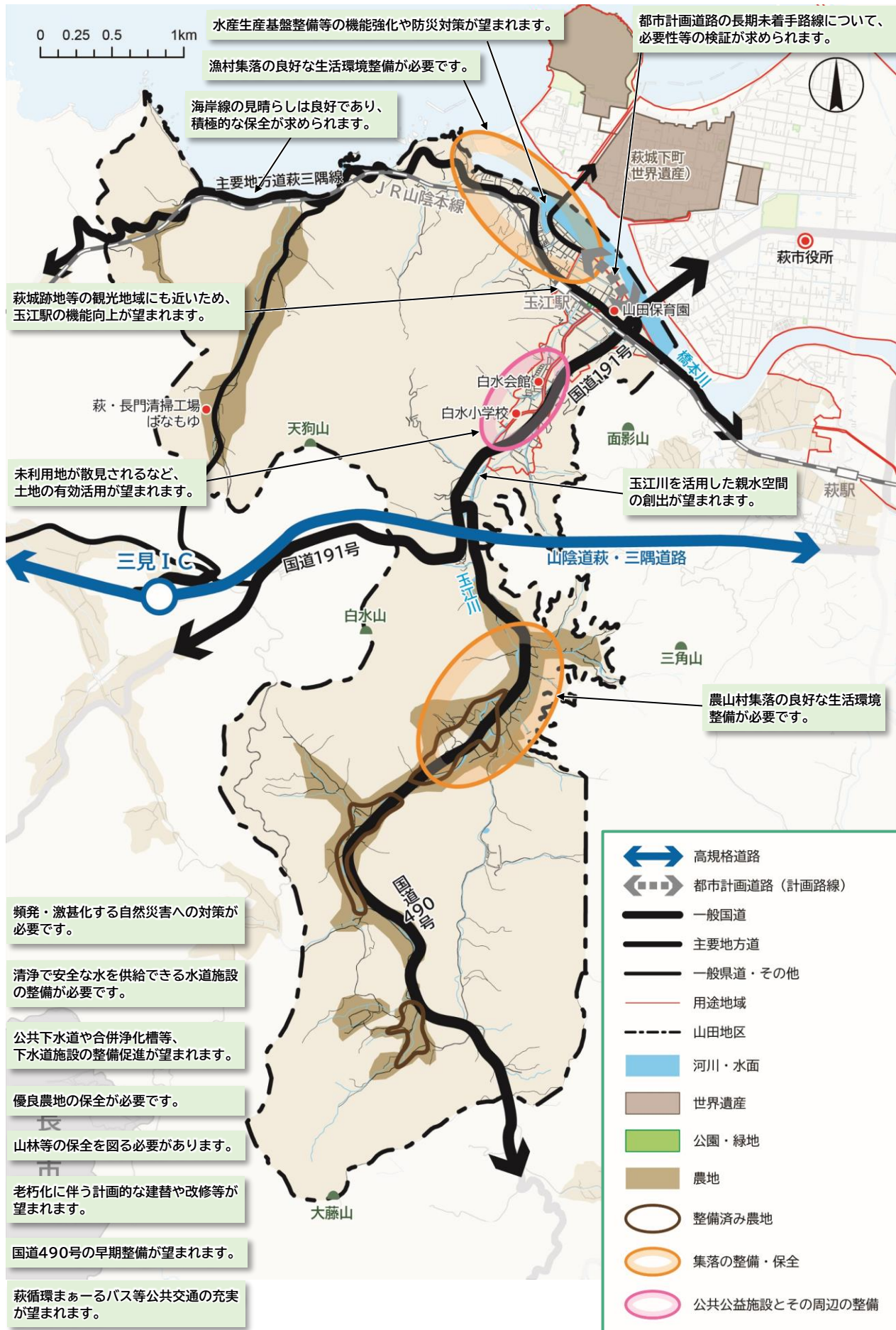
- ・山間部に位置した農村地区を南北に縦断する道路です。
- ・玉江川周辺は美しい自然が残っており、ホタルがみられ、多くの人が訪れています。

(2) まちづくりの問題・課題

項目	問題・課題
1) 土地利用	国道191号沿道及び玉江川周辺の既存の住宅地は、未利用地が散見されるなど、土地の有効利用が望まれます。
	農山漁村集落においては、下水道や安全な生活道路等の生活環境の整備が必要です。
	地区内にある優良農地については、積極的に保全を図る必要があります。
2) 自然環境・景観	地区の大半を占める山林等の保全を図る必要があります。
	ホタルの舞う玉江川には良好な自然環境が残っており、親水空間としての活用が望まれます。
	北長門海岸国定公園からの海岸線の見晴らしは良好であり、積極的な保全が求められます。
3) 道路・交通	豊かな山林や地区の自然緑地については積極的に保全を図る必要があります。
	国道191号及び国道490号は地区の骨格道路であり、通過交通も多い路線であるため、災害に強く使いやすい道路の整備・保全が求められます。
	都市計画道路の長期未着手路線について、必要性等における検証が求められます。
	萩循環まあるバス等公共交通の充実が望まれます。
4) 施設整備等	主要観光地にも近い玉江駅の機能向上が望まれます。
	頻発・激甚化する自然災害への対策が必要です。
	清浄で安全な水を供給できるよう、水道施設の整備が必要です。
	公共下水道や合併浄化槽等、下水道施設の整備促進が望まれます。
	玉江漁港は、水産生産基盤整備等の機能強化や防災対策が望まれます。
各施設の老朽化に伴う計画的な建替や改修等が望まれます。	



5) まちづくりの問題・課題図





(3) まちづくりの方針

●まちづくりのテーマ

『歴史と自然が調和するまちづくり』

～豊かな自然環境の保全とうるおいある良好な居住空間の整備～

●まちづくりの基本方針

- ・ 地域資源である森林や河川等の豊かな自然環境を維持・保全するとともに、環境に配慮した土地利用を進め、後世に受け継ぐべき自然と共生するうるおいのあるまちづくりを目指します。
- ・ 代々受け継がれてきた豊かな農地や漁場を保全するとともに、営農・漁業環境を整備し、農業や水産業の振興を支援します。
- ・ 人口減少、高齢化が加速する本地区においては、地区住民の生活を支える生活基盤の維持・整備を推進し、良好な自然・歴史的環境と調和した居住空間を確保するとともに、交流の場の確保等により地域コミュニティの維持に努めます。

項目	方針
1) 土地利用	国道191号及び玉江川周辺の既存の住宅地は、細街路が多く未利用地も多いため、道路等の基盤整備を行いながら住宅地環境の質の向上を図ります。
	河口部や山間部における既存集落においては、漁港・山林・田園景観と調和した農山漁村集落の自然環境を保全し、下水道や安全な生活道路の整備等の基盤整備を推進することで、自然と共生し、ゆとりのある快適な居住空間の形成を図ります。
	良好な営農環境を保全するとともに、優良農地については積極的な保全を図ります。地区の大半を占める山林等の保全に努めます。
2) 自然環境・景観	玉江川等については、水質の保全や多自然型護岸化等に努め、ホタルの舞う空間として良好な水辺環境の保全を図るとともに、憩いの場を提供するオープンスペースの創出や子ども達の環境学習や自然体験活動の場としての整備等、積極的な自然資源の活用を推進します。
	見晴らしのいい海岸線について、積極的な保全を図ります。
	豊かな山林や自然緑地については、水源かん養・国土保全、また景観形成要素として、その保全を図ります。
3) 道路・交通	国道490号の早期整備を促進します。
	都市計画決定後、長期にわたり事業が未着手の都市計画道路については、社会情勢の変化や都市政策の転換による必要性等について検証し、都市計画の見直しを行います。
	玉江駅におけるユニバーサルデザインへの配慮等、機能の向上を図ります。萩循環まあるバス等公共交通の利便性向上を図ります。
4) 施設整備等	頻発・激甚化する自然災害に対応するため、災害リスクの高い区域における開発の抑制、移転の促進、「阿武川水系流域治水プロジェクト」との連携強化など、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を進め、被害の軽減を図ります。
	清浄で安全な水を供給できるよう水道施設の整備に努めます。
	水洗化の促進を図るとともに、公共下水道や合併処理浄化槽等の下水道施設の整備を進めます。
	玉江漁港においては、水産生産基盤整備等による機能強化を図るとともに、長寿命化対策や保全工事等により防災対策を推進します。「萩市公共施設等総合管理計画」に基づき、公共施設等の適正化、適切な維持保全を推進します。

5) まちづくりの方針図

